

## 令和3-4年度期第4回瑞浪市市民まちづくり会議議事概要(確定)

日	時：令和4年7月20日(水)18時54分～20時58分
場	所：瑞浪市役所保健センター3階大会議室
出席委員	：(会長)羽柴誠、高野雅夫、小木曾文和、谷本陽子、大竹和夫、山田仁美
事務局	：小木曾昌弘(まちづくり推進部長)、加藤博史(市民協働課長)、鈴木友恵(同まちづくり支援係長)、中箴高弘(同主査)
欠席委員	：(副会長)金津誉、本荘恵子、三宅芳明

### 1 会長あいさつ

明日から公立小中学校は夏休みである。新型コロナウイルス第7波の急拡大で、子どもたちのワクワクの灯(ひ)が消えてしまわないことを願っている。コロナ禍から3年経つが、陶町大川の与左衛門窯では、ワクワクの灯が消えていない。県外からも人が来ているため、大川区長として話しかけてみたところ、県外の人にとっては、作陶はワクワクする体験で、ネットで調べてやって来たとのことであった。また、トイレも洋式の洗浄機付きで、きれいに掃除がしてあった。人に来てもらうためには大切なことだ。取組検証にあたって、ワクワクを見つけ出しているか、ワクワクを広げたか、ワクワクを支える、消さない努力をしているか…が、私の観点である。各委員は、それぞれの観点をお持ちであろう。忌憚のない意見をお願いする。

事務局：会議成立の宣言

### 2 議事

#### (1) 前回の取組検証の結果について …資料1-①～④

- ◆まちづくり基本条例第9条にかかる以下の3つの取組(該当する課:3、シート数:4)
- ①子ども及び若者のまちづくりへの参加促進/青少年育成活動 担当:社会教育課
- ②域学連携事業の推進 担当:市民協働課
- ③地域学校協働活動の体制整備/コミュニティ・スクール 担当:学校教育課、社会教育課

事務局：資料に沿って説明

委員：上手にまとめられている。異議なし。

会長：全体評価としては、取組によって3.3から4.3とばらつきがある。ポイントの低い部分については具体的な改善につなげていただきたい。

事務局：検証のまとめを市長への答申案に反映する。なお、この検証・評価シートについては、担当課にフィードバックし、今後の取組の参考として活用していただく。

(その他意見なし) 19:17

#### (2) 取組検証 …資料2-①～③

- ◆まちづくり基本条例にかかる以下の3つの取組(該当する課:市民協働課、シート数:3)

##### ①第7条(P5):自治会の活動支援

事務局：資料に沿って説明

会長：現在、区長をしているが、特に「自治会ハンドブック別冊Q&A」が役に立つ。相談先などを参照し、連絡したことがある。

委員：自治会にこのような役割があることや各種支援があることなど、知らなかった。

委員：夫が区長である。地区要望の取りまとめは地域、行政にとって効率的であるとの

説明であった。直接、土木課などに専門的なことを問い合わせたこともあるが、問題はないか。

事務局：問題ない。役員の負担軽減策の一つとして窓口を一元化しているが、緊急対応や専門的な事項は、ハンドブックに担当窓口の電話番号なども記載されているので、直接問い合わせさせていただいて構わない。

事務局：地域内でも多様な意見がある。地区要望の取りまとめには、様々な意見の調整をしていただくという意味がある。

委員：昨年度、連合自治会でコロナ禍における自治会活動についてアンケート調査を行った。「運営上の課題」の問いでは、「高齢化により役員のなり手が少ない」との回答が突出して多く、「行事への参加が少ない」、「加入世帯の減少」がそれに次ぐ結果であった。小さな区ほど「区長は男性でなければならない」、「妻帯者でなければならない」など、前時代的な考え方も根強い。令和3年度の女性区長は全市で2名、稲津町ではいまだゼロである。市から具体的な指示などはできないと承知しているが、間接的な支援をしてほしい。

自治会は大切だが、緊急事態などが無い限り、それが目に見える形で伝わらず、加入率は減少している。そこに力を入れてほしい。どうPRしたらよいか、何らかの支援の仕方があるのではないか。

委員：集落支援員がありがたい。まちづくりと自治会は車の両輪のような関係というが、集落支援員のおかげで、そのように機能している。日吉地区の自治会加入率の低さにショックを受けた。何らかの対策が必要であろうが、要因は把握しているか。

事務局：全市的には人口が減少する一方で、世帯分離などにより世帯数は増加傾向にあること、世帯分離や集合住宅入居者の増加などがある。

事務局：日吉町の場合は、親世帯と子世帯の世帯分離やUターン時に住民基本台帳上は親と別世帯にしながらも、組付き合いは一世帯としていることなどが要因と考えられる。

委員：まちづくりも区長会と連携して自治会への加入を促進していきたい。

委員：担い手不足は、全国的な課題である。これまでと同じことをやっていたら、消滅する。昔は自治会活動に稲作のための水路管理という目的があったが、今では田舎でも若い人が自治会活動に意義を見いだせない。若い人に役割が集中し、負担が大きい。Uターンしたくない理由に休日を地域活動に取られてしまうことがある。やめるべきことはやめ、本当に必要なことに活動を集中しなければいけない。

大湫では独自の「大湫町ミライ総合振興計画」を策定し、若手にとって問題である負担の多さを減らしていこうとしている。実際に何かをやめるのは難しいが、やらなければ先がない。市は、相談に乗るなどの支援が必要である。SNS上では「自治会をアップデート」という議論が全国展開している。参考にしていきたい。

(その他意見なし) 19:48

## ②第8条(P9):まちづくり推進組織の活動支援

事務局：資料に沿って説明

会長：「Instagramによるフォトコンテスト#いいかも瑞浪」は、とてもよい。審査を中学生や高校生に協力してもらうのもよいかもしれない。市民活動補償制度について、地区の行事に先立って、個人が急に思い立って草刈りをした場合に負ったけがなどにも、対応していただけるか。

事務局：自治会やまちづくりなどの団体が、継続的、計画的に行っている公益活動が対象となるので、個人が急に思い立って行った場合は対象にならないが、実際の発生状況等を聞いたうえで、保険会社に照会するので、市民協働課あてに連絡いただきたい。

会長：その旨をQ&Aに追記していただきたい。

委員：集落支援員制度は、とても助かる。給料は、どこが決めているのか。

事務局：市が条例で定めている。

委員：私の地区では、若い人がやっている。あまりに安いので、もう少し何とかならないものか。

委員：私の地区でも40代の人が、頑張ってくれているので、何とかなるとよい。

夢づくり地域交付金は、ありがたい。かつては、区長会や財産区からの支援のみであった。ただ、市は交付金を出すから、まちづくりで全てやるように…という傾向にある。市がやるべきことは、市でやってほしい。

委員：夢づくり地域交付金で実施する35事業は、地域の人の楽しみや異世代交流につながる重要なものばかりである。集落支援員は大活躍しており、人的支援の重みを痛感している。しかし、集落支援員の本来の役割は、市政と地域の架け橋として、地域課題を市に伝えることである。現状では、イベントや雑務に追われて本来の職務ができていないのではないか。レベルアップ研修は重要なので、回数だけでも増やしていただきたい。市の支援職員は、よく動いてくれ、参加いただくことでイベントなども盛り上がる。人的支援に感謝している。

委員：地元のコミュニティセンターの職員も知らない。また、地域のイベントなども、自分たちより上の世代の人が中心でよく知らないため、子どもにも伝えることもできない。

委員：夢づくり地域交付金のステップアップ事業の採択は、毎年、一地区一事業限定か。複数の応募の中から選考しているのか。

事務局：一地区一事業と限定されているわけではない。これまでも2事業が対象となったこともある。前年度の予算編成期までに意向調査を行っている。

委員：夢づくり市民活動補助金の補助率はどのようか。

事務局：補助対象経費の2分の1以内、上限50万円である。

委員：市の規模から見て、もっと申請があっても良さそうなものだ。市民にとって2分の1の自己負担があるというのは、厳しいのではないか。補助率を80%程度にしたなら、もっと活用しやすくなるのではないか。

連合自治会とまちづくり組織の関係がうまくいかない市もあると聞くが、本市の状況はどうか。

事務局：市内全体での意見交流会を年1回は実施している。各地区単位では、それぞれ密に連携している。

委員：私の地区では、毎月、まちづくりの理事会に区長会長が顧問として参加、区長会にはまちづくりの理事長が参加…というようにそれぞれが互いの会議に参加し、発言する機会を設けている。また、例えば、コロナ禍において、大きなイベントなどを企画する際には、まちづくりの役員と区長会の役員が実行委員会に参加し、実施の適否を相談するなど、連携を取りながら活動している。他地区でも同様であろう。

委員：私の地区でも、副区長2名がまちづくりの役員として出向し、組織の一員として活動している。

会長：各地区で、「車の両輪」として機能するように工夫している。

委員：役員は、結構大変であろう。

委員：負担が大きくなるようにすることが大事である。

(その他意見なし) 20:24

### ③条例に規定はないが重要な取組として:空き家活用×移住・定住について

事務局：資料に沿って説明

委員：ポータルサイトは、大変良い取組であるが、瑞浪市の場合、ベッドタウンとしてのニーズがある瑞浪・明世地域と、中山間地域つまり田舎の情報が混在していて、違和感がある。ベッドタウン的な地域については、名古屋への通勤者の支援も大事だが、デベロッパーや不動産業者もいることから、側面的支援でよい。大湫町や釜戸町などは不動産業者などが入らないので、市が支援するべきであろう。ベッドタウンに関する情報と田舎暮らしに関する情報を分けて提供するとよい。

空き家・空き地バンクへの登録申請があった20件のうち、実際に登録できたのは4件

だけということだが、所有者にしてみたら、空き家等の処分に困っているのにバンクに登録ができず、さぞがっかりしていることであろう。大湫町の転入対策委員会や釜戸町の空き家対策協議会には私も参加しているが、そういった会の意見も参考にして、活用されるバンクにしていきたい。

委員：私の地区にも、人が住めそうにない空き家や猫や猿が入り込んでいる空き家はあるものの、登録物件はない。まちづくり推進組織でも、市の空き家・空き地バンク担当者にも参加してもらい、空き家・空き地対策に取り組んでいる。区長会とも協力して、地域の人達と話をしていくべきであろう。前に進めていきたいが、これといった良い案がない。

委員：名古屋市に住む息子の妻が、「地下鉄で瑞浪市の移住・定住ポスターを見て驚いた」と言っていた。インパクトが大きい良い取組だと思う。

他県で空き家バンク制度を利用して移住した人が、誤って振り込まれた新型コロナウイルス対策の臨時特別給付金を返還せずに大きなニュースとなっていた。瑞浪市の制度では、移住・定住希望者の審査はあるのか。

事務局：売主が買主・借主を決定する。バンクでは、審査はしない。なお、大湫町では、転入対策委員会が転入希望者を面談している。

委員：どのような人が来るのかと、心配するのは当然のことである。移住はしたものの、トラブルの末、転出してしまうこともある。豊田市の制度では、地域による事前面談がある。市の担当者は、準備はするが判断はしない。また、恵那市笠置町の移住定住委員会は、移住希望者と家主や地域の人が話す機会を設けるなど、希望者と地域のマッチングを行っている。

所有者は、地元の人や親せき、幼馴染などが働きかけないと、なかなかバンク登録をしない。地区に住民の移住定住推進組織がないと、進まない。釜戸町・大湫町以外の地域でも委員会を組織してみるとよい。助言できるので、必要であれば声をかけてほしい。

移住希望者は多く、常にホームページをチェックしていて、よい物件が載るとすぐに決まる。笠置町でも2週間程度で決まる。即入居したい人もいるが、物件が傷んでいるから希望者がいないかという、自分で手を入れて住みたいという人もいる。広く考えるとよい。

会長：一般的にはすぐに住みたいものと思っていた。

委員：田舎暮らしを望む人とベッドタウンでの暮らしを望む人とは、客筋が違う。

(その他意見なし) 20:55

### (3)今後のスケジュール

#### ◆第5回市民まちづくり会議(今期最終回・予定)

日時:8月24日(水) 午後7時～ 会場:市役所 西分庁舎1階会議室

内容:第4回の検証結果の報告、市長への答申(案)の検討 …予定

事務局：説明

(質問なし) 20:56

会長:長時間にわたる活発な質疑、検証作業に感謝する。本日はここまでとし、「3 報告事項」については、次回に持ち越すこととしてよろしいか。

(異議なし)

事務局:7月26日までに取組検証(評価)シートを提出いただくようお願いする。

会長:第4回瑞浪市市民まちづくり会議を閉会する。

(終了) 20:58